

おばら桜バスの利用特性に関する研究

豊田工業高等専門学校 学生員 尾崎 優貴
豊田工業高等専門学校 大森 峰輝

春日井市役所 平野 直人
豊田工業高等専門学校 正員 野田 宏治
株式会社 キクテック 正員 荻野 弘

1. はじめに

豊田市小原地区では、地区の公共交通として電話予約式デマンドバスの「おばら桜バス」が導入されている。小原地区の人口は、平成 18 年の 4,434 人から平成 25 年 3 月には 4,019 人に減少し、高齢化率は 31.3% から 33.4% へと増加している。バスの利用も高齢者が多く、今後も高齢者の利用が増加するものと考えられる。今後、おばら桜バスを存続させていくためには高齢者はもちろんのことその他の年齢層の人にも積極的に利用促進を図る必要がある。

本研究では、一昨年実施したおばら桜バスに関する住民意識調査とバスの運行データの分析から、おばら桜バスの利用特性を明らかにする。

2. おばら桜バスの概要

表-1 におばら桜バスの概要を示す。バスはタクシー2台を使用し、週の平日4日間の運行されている。バス停は原則民家から 200m 以内に配置されており、高齢者も利用しやすい。利用予約業務は、24 時間体制でタクシー会社が担っている。

おばら桜バスは利便性を高めるため、運行内容が変更される。平成 23 年度からの変更点は、予約受付時間が中間時間帯の限定から 24 時間体制となり、バス停の位置改変と増設を 4 カ所行っている。さらなる課題として、おばら桜バスの収益が運行基準を満たしていないため廃止になる可能性²⁾がある。そのため、より利用者拡大に努めなくてはならない。

3. 利用実態

(1) バスの利用者特性

おばら桜バスでは、運行する車両が運行データとして、利用バス停、時刻、距離、利用者属性（男女、外見年齢）を記録している。平成 23 年度の記録³⁾をもとに利用実態の分析を行った。

年度の利用人数は 5,870 人、そのうち 87% が高齢者、利用者の 85% が女性であった。幼児や小学生など子供の利用は極端に少なく、全体の 1% 程度であった。

時間帯別の利用を見ると、全体の 2/3 が午前中の利

表 - 1 おばら桜バスの概要 (H24 年度)

車 両	中型タクシー2 台	バス停	157 カ所
運行日	火・水・木・金	料 金	1 乗車 100 円

表 - 2 利用回数の多いバス停

利用回数	(%)	バス 停 名	周 辺 施 設
1633	15.8	小原診療所	診療所（中心市街地）
1554	15.1	大草バス停*	JA, 基幹バス（中心市街地）
343	3.3	小原支所	（中心市街地）
297	2.9	北町大萩	
267	2.6	上仁木バス停*	基幹バス
246	2.4	大倉町申堂ノ下	
243	2.4	雑敷八柱神社下	
232	2.2	福祉センター	福祉施設, 診療所
196	1.9	北篠平バス停*	基幹バス
190	1.8	岩下町下ノ前	
169	1.6	川下町西	
162	1.6	郷土館	郷土館, JA

* : 基幹バス路線に接続するバス停

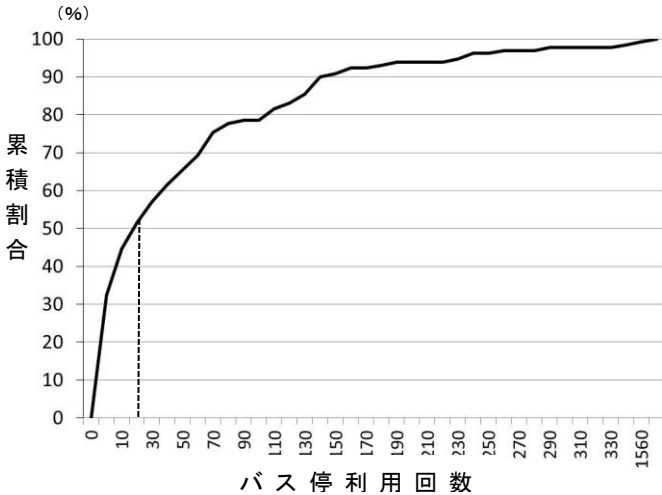


図-1 利用回数区分の累計

用であった。特に小原診療所の診療時間が午前中のみであることに起因しているものと思われる。

(2) バス停の利用回数

バス運行記録 OD データからバス停の利用回数（バス停ごとの発着回数）を求めた。全く使われていないバス停が 27 カ所（18%）ある。一方利用回数の高い上位 12 番目までのバス停と利用回数を表-2 に示す。表から小原診療所の利用回数が 1,633 と非常に多く、全体

表-3 おばら桜バスと基幹バスとの隣接バス停

小原 豊田線	おばら桜バス停名	利用回数	おばら桜バス停名	利用回数
	大草	1557	下仁木	74
	上仁木	267	和紙のふるさと	70
	北篠平	196	寺平口	48
	市場口	131	大平口	43
旭 豊田	日面口	70	上百月	3
	平畑口	6	—	—

の 16%であった。次いで中心市街地の大草バス停が 15%であった。12 位までのバス停だけで全体の 54% を占める。

図-1 に各バス停の利用回数とその割合との関係を示す。図から年間利用回数が 20 回未満となっているバス停が 50%以上あることがわかる。

小原地区には基幹バスのバス停が 20 あり,そのうちおいでんバスとおばら桜バスのバス停が隣接している所は表-3 に示す 12 カ所である。発着回数の合計は 2,462 と利用回数全体の 25%ある。桜バスからおいでんバスへと乗り継いで豊田市中心街へ出ける人も多いことが考えられる。利用回数が最も多いのは、大草バス停、次いで上仁木バス停、北篠平バス停と続く。一方、旭・豊田線については、日面口バス停の 70 回が最高で、他のバス停については利用が少ない。この路線は小原地区の端（図-2）を運行しており、小原・豊田線より利用可能者数が少ないためと考えられる。

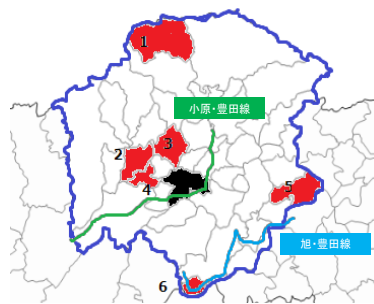
4. 利用少数地域に関する分析

過去の小原地区住民に対して行った公共交通利用に関する意識調査結果¹⁾から、80 歳を超えると急激に自動車依存度が減り、送迎に頼ることが明らかになっている。

図-2 は、80 歳以上の人口割合が高く(22%以上)、バスの利用が少ない地域である。小原町は、小原地域の中心地で、大草バス停があり小原診療所がある主要目的地である。小原町付近のゾーン 2, 3, 4 の利用率が低いことに関しては小原町への距離が近く、ゾーン 5,6 に関してはおいでんバスの路線があり、おいでんバスを利用した移動をしているものと考えられる。ゾーン 1 に関しては小原や豊田市中心街へ行くよりも、距離的に近い隣接の土岐市へ移動するものと考えられる。

5. 住民意識調査の自由記述に関する分析

おばら桜バスに対する改善案を抽出するために住民に対して行った公共交通利用に関する意識調査の自由記述欄を分析した。



番号	町 名	割合 (%)	
		65 以上	80 以上
	小原町	28.2	10.7
1	小原田代町	44.0	11.9
2	千洗町	36.1	8.2
3	沢田町	32.0	22.2
4	喜佐平町	31.1	11.1
5	樽俣町	55.8	19.2
6	百月町	32.0	16.0

図-2 利用少数地域かつ 80 歳以上人口の高い地域

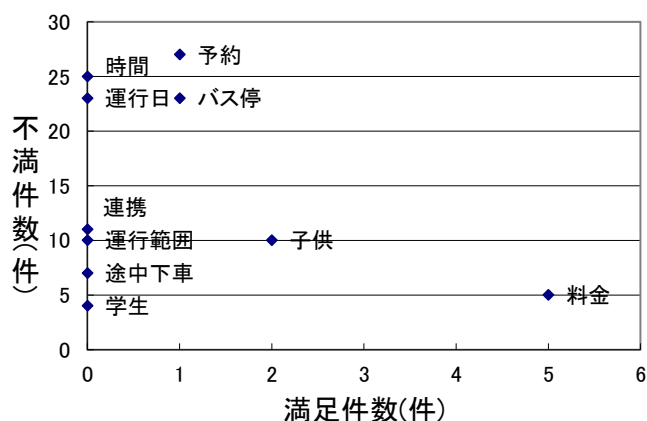


図-3 自由記述による改善すべき項目

図-3 は内容ごとの意見を不満,要望,肯定に分け不満や要望の意見は不満度,肯定意見は満足度とした。

不満件数の多い項目として、予約、運行日、バス停、時間があげられる。運行日に関しては土日の運行を希望する意見が多く全体の 10%であった。バス停に関しては、バス停までの距離が遠い、坂道が多い指摘があり、夜間の運行時間拡大を望む声もあった。

子供の利便についての意見は少なく、優先順位は低い。利便性向上に関しての主な意見としては、習い事を利用したい（定期自動予約）、学校への送迎用に使いたい、子供一人で乗っても安心できるシステムを構築してほしいなどの意見があった。

6. まとめ

今回の研究で利用には地域性があり、過疎地や山間部ではバス停の問題や自動車への依存が存在することがわかった。子供に利用させたいと考える人が多く、子供に対して習い事などへの利用促進策を考えれば、利用拡大に繋がるのではないのかと考えられる。

最後に今回ご協力頂いた小原支所や住民の方々へ感謝申し上げます。

【参考文献】

- 1) 倉橋一将：おばら桜バスの利用実態と今後の課題
豊田工業高等専門学校 卒業研究 (2011)
- 2) H23 年度おばら桜バス利用データ：豊田市小原支所作成
- 3) 小原地区広報”おばらだより”2012 年 11 月号